

丹後農業実践型学舎研修情報（6月）

（研修概要）

【6期生】

- ほ場の耕耘、肥料散布、かん水等を通じて各種機械の使用方法を習得した。
- 甘藷、かぼちゃ等各種野菜の栽培管理をした。
- 「経営・マーケティング論」「農業機械」を受講した。
- 農業士、農業法人と交流した。
- 農業機械展示会、加工用キャベツ栽培講習会に参加した。



カンショ畝間 中耕



カボチャ 敷き藁



圃場法面 刈払作業



秋作圃場準備（草刈り・プラソイラ）



加工用キャベツ栽培講習会



農業機械講習

研修を通じての学舎生の所感（抜粋）

管理機を使用しての畝間の中耕や動噴を使用しての除草剤散布で除草をした。作物を育てる上で非常に大事な作業なので、必ず行うべきであると感じた。

プロの農家のキャベツ畑を見学した。キャベツだけでなく、畑の管理の仕方も複数の農家さんのものを見比べながら見学することができたので勉強になった。

カボチャの葉がとても大きくなり追肥をしたことで成長が楽しみに思えてきた。カボチャの黒マルチから雑草が生えてきているのでしっかり除草して良いカボチャを出荷していきたい。

カボチャ圃場で藁を敷いた畝と藁を敷いていない畝の比較を行っている。その結果を確認して、自分の圃場で敷き藁作業を行うかを判断したい。自分はイネ科の花粉症があるため、敷き藁を行わない手もあるが、結果次第では花粉症の予防を行ってでも敷き藁を行う必要があるかもしれないので、今後の結果が気になる。

初めて刈払作業を行った。自分は初めて草刈り機を持って本格的に刈払作業を行ったため、まだまだ不慣れな部分があり、自分一人でやるには効率が悪いと感じた。これから周りの方に教えてもらいながら、草刈りなどの作業に慣れ、効率よく農作業を行うことができるようにしたい。

カンショの株元の除草を行ったが、草が根強くたくさん生えていた。独立営農を始めた際は、全ての作物を一本一本毎日観察し、株元に雑草が生えている際はすぐに抜き取ることを心がけることで、今回のような大変な除草作業を行わずに済むと思われるので、営農する際は注意したい。

電気柵の下準備として、カンショやカボチャの圃場周りを刈払機で除草を行った。今後とも早め早めに準備し、その後の作業が適期に行えるように心がけていきたい。

一カ所に農薬を集め、現時点での農薬残量を確認していく点検作業を行った。農薬使用記録簿を作成し、在庫量と出庫量を記録できるようにもした。独立後も適正な保管ができるよう心がけたい。

入植する予定の圃場の土に触れた。他の圃場の土に比べて、粘りけがあり、深耕で起こした土塊を触ってみると、まるで田んぼの土のようだった。小石は含まれているものの、保肥力はある土である。土性を活かして栽培できる作物・方法を考え育てていきたい。

かんかん照りの中では周囲では誰も作業をしておらず、やはり最も暑い14時前後は別の作業をしているのではないかと思われた。自身も暑さにやられたようで、いつの間にか1コース分耕耘し残しを作ってしまった。体調は悪くないものの、前兆かもしれないので、早めに交代してもらった。